

親子で本に親しもう ～絵本の紹介～

7月8日(金)「親の学び研修会」資料
会場 一迫幼稚園

『ちょっとだけ』(福音館書店)

瀧村 有子 作・鈴木 永子 絵

・赤ちゃんが生まれ、お姉ちゃんになったことで自分の気持ちをぐっと抑えている子供の思いと母親の愛情が伝わる絵本。



『おこだでませんように』(小学館)

くすのき しげのり 作
石井 聖岳 絵

・小学1年生の「ぼく」は、家でも学校でも怒られてばかり。そんな「ぼく」が七夕飾りの短冊に書いた願い事とは…。



『くれよんのくろちゃん』(童心社)

なかや みわ 作・絵

・仲間のクレヨンたちが、楽しくお絵かきをする中、出番のない黒色クレヨンのくろちゃんの個性が輝く絵本。



『きょうはなんのひ?』(福音館書店)

瀬田 貞二 作・林 明子 絵

・娘からの「宝探し」のような手紙の数々をたどっていきながら、家族の温もりと絆の深さが伝わってくる絵本。



『へいわとせんそう』(ブロンズ新社)

谷川 俊太郎 作・Noritake 絵

・見開きページの左右に子供の表情や親子の姿をシンプルに対比させて描いた絵から、平和の大切さをやわらかく伝えてくれる絵本



『としょかん ライオン』(岩崎書店)

ミッシェル・ヌードセン 作

・きまりや優先すべき大切なこととは何かということ、突然、ライオンがやってきた図書館を舞台に親子で一緒に考えることができる絵本。



『おかあさん ありがとう』(金の星社)

みやにし たつや 作・絵

・欲しかったおもちゃをやっと買ってもらえた「ぼく」は、ある日、生まれたときの様子をお父さんから聞いて…。

同シリーズの『おかあさん だいすきだよ』もお勧めの絵本。



『だいじょうぶだよ モリス』(飛鳥新社)

カール ヨハーン エリー 著

・家族で引っ越しをして、新しい生活が始まったモリスに、次々と不安や心配事が起きる。そんなモリスに魔法の言葉掛けが…。



『いのちをいただく』（講談社）

内田 美智子 作・魚戸 おさむ 絵

・肉牛を育てる家庭で、小さい時からかわいがってきた牛との別れの日が来る。命の重みと食の大切さを問いかける絵本。



『てん』（あすなろ書房）

ピーター レイノルズ 作

・お絵描き嫌いの少女が授業でやけになって描いた「点」だけの絵を、先生に認められたことで、子どもの意識と行動が変わっていくお話。



『イソップ童話』（成美堂出版）

渡辺 弥生 監修

・古くから読み継がれている童話集。短いお話の中に子供にも感じ取れる教訓が散りばめられている。



『しりたがりやのふくろうぼうや』（評論社）

マイク サラー 作・デービッド ピスナー 絵

・何でも興味を持ち知りたがるふくろうの坊やと、自分で確かめさせながらも温かく見守る母親の姿を描いた絵本。



『ママがおこるとかなしいの』（金の星社）

せがわ ふみこ 作・モトヅキ マリ 絵

・よい子に育ててほしいと思うあまり、命令口調や否定的な言葉掛けが多くなりがちな親へのメッセージも込められた絵本。



『わたしのそばできいていて』（WAVE出版）

リサ パップ 作

・字を読むことが苦手で嫌いな少女マディが、図書館で出会った犬との交流を通して、苦手を克服していく心温まるお話。



『ねこのピート』だいすきなしろいくつ

(ひさかたチャイルド)

エリック・リトウィン 作 ジェームス・ディーン 絵

・ねこのピートが、まああたらしい靴をはいて出かけて行くお話。行く先々で好きな白い靴の色が変わってしまうが、ピートの前向きな受け止め方が楽しい絵本。



『こわいきもちとちよつとのゆうき』（星雲社）

たかみや かなえ 作・おぼら ふうこ 絵

・急な予定の変更にとまどったり、友達と話すことも苦手だったりする1年生の男の子が祖母の話聞いて勇気を出して友達に話しかけてみるお話。

